

タイ政府による、優先的な輸送インフラ開発案件（計画・進捗）

1. 高速鉄道建設計画 4 件

- ・ 首都バンコク～ラヨーン県の間 194 km に関し、2018 年内に、官民連携（PPP）事業者の選定と契約を行う
- ・ バンコク～ナコンラチャシマー県～ノンカイ県の間 608 km を、中国政府との協力で建設（注 1）
- ・ バンコク～ピサヌローク県～チェンマイ県までの 673 km を、日本政府との協力で進める。現在、日本政府と実現可能性を検証中
- ・ バンコク～ホアヒン県の間 211 km について具体的な計画を策定中

2. 鉄道網の複線化計画

- ・ 既存の国際の単線鉄道網を複線化するため、2018 年中に全ての関連契約を完了し、整備に着手する。同複線化により、輸送能力を既存の 4 倍に拡大する。具体的には、第 1 フェーズは 2020 年までに 7 路線（993 km）の複線化工事を完了、第 2 フェーズは 2026 年までに 7 路線（1,392 km）の工事を完了させる。更に、複線化区間（3,445 km）の鉄道はすべて電動化する

3. 首都圏高速道路網および都市鉄道の整備

- ・ 主要高速道路区間について、①パタヤ市～マプタプット市の間（32 km）を 2018 年 11 月までに完工（工費 5 億ドル）、②バーンパイン郡～ナコン・ラチャシマー県の間（196 km）を 2020 年 7 月までに完工（工費 22 億ドル）、③バンヤイ区～カンチャナブリ県の間（96 km）を 2020 年 10 月までに完工（工費 14 億ドル）
- ・ バンコク首都圏の地下鉄および高架鉄道（BTS）ネットワークを拡張し、バンコク中心部から計 10 本、480 キロの都市鉄道ネットワークを 2024 年までに完成する

4. 港湾の整備

- ・ 国際港であるレムチャバン港のコンテナの積み替えシステムを改善し、鉄道から船までの一貫輸送によるシームレスな搬入・積み替えを可能にする。新システムを担う民間業者を 2018 年中に決定し、契約を完了する（注 2）。こうした改善により、同港の積み替え処理能力を 1,800 万 TEU まで拡大する。タイ湾内でのフェリーサービスを 2023 年までに開始し、タイ湾周辺の観光地であるパタヤとホアヒンが、湾内フェリーで効率的に結ばれる。

5. 航空輸送

- ・ バンコク近郊のスワンナプーム空港、ドンムアン空港、北部チェンマイ空港、および南部プーケット空港の整備拡張を図る
- ・ 運輸省に分散している主要国際空港の運営管理をすべて空港管理局（AOT：Airport Authority of Thailand）に移管し、効率的な運営を図る
- ・ スワンナプーム空港の拡張は、第 3 フェーズの 2021 年までに、現状のキャパシティである年

間 4,500 万人を、9,000 万人に倍増する。発着便数は年間 44 万 9,044 便まで拡大する。

- ・ 既存のターミナルと同規模のターミナルおよび滑走路を建設する
- ・ ウタパオ空港の大規模拡張（2023 年より新空港稼働）によってスワンナプーム空港およびドンムアン空港の利用を分散する。同 3 空港を結ぶ時速 250 キロメートルの高速鉄道を建設し、2023 年までに稼働させる

（注1） まずはバンコク～ナコン・ラチャシマー県の間を優先的に建設し、次にラオス国境のノンカイ県まで延長。同高速鉄道が完了すれば、バンコクからラオス国内を抜けて昆明までを結ぶ高速鉄道網が完成する

（注2） 新たな積替えシステムは、Single Rail Transfer Operator（SRT0）方式を導入する。

（参考）タイ政府が開発を進める「東部経済回廊（EEC）」については、輸送・物流インフラ関連で、合計 168 件（274 億ドル）規模の事業を計画。初期フェーズ（2019 年までに開始）で 99 件、中期フェーズ（2023 年までに開始）で 62 件、それ以降に 7 件登録。必要資金総額のうち、59%が PPP で賄われ、政府は 30%、国有企業収益から 10%、その他政府基金から 1%を充当。初期フェーズのバンコク - ラヨン間の高速鉄道建設、ウタパオ空港の開発計画は 2018 年内に実施契約を完了させる予定だ。

以上